

資料

令和6年度各専門部会等の活動報告

令和7年(2025)3月21日

出雲市健康福祉部福祉推進課

令和6年度 じりつ専門部会（施設からの地域移行 WG） 報告書

部会メンバー	部会長：濱村（光風園）、副部会長：高尾（出雲サンホーム） メンバー：玉木、川島（かのん）、富岡（Reve） 事務局：木村、砂田、三沢
テーマ（ねらい）	施設からグループホームを経て地域への移行の流れをふまえ、まずはグループホームからの地域移行の現状および課題を把握する。
活動状況	■施設からの地域移行 WG 6 回開催〔5/1、6/5、8/8、10/9、12/4、3/5〕 ○3 か年の活動計画検討 ○相談支援専門員向けに「グループホームから地域移行したケースに関する実態アンケート」を実施、地域移行できたケースの把握と、手立てがあれば地域移行できるケースに対して個別に聞き取りを実施し、現状と課題を把握した。 ○グループホームのサービス管理責任者向けに「グループホームから地域移行したケースに関する実態アンケート」を実施、手立てがあれば地域移行できるケースの現状と課題を共有した。 ■にも包括 WG との合同 WG 3 回開催〔9/13、11/6、1/20〕 ○じりつ部会 WG 合同の協議にて、それぞれの WG の活動報告や進捗状況の共有を行った。また、じりつ専門部会企画の 2 月サービス調整会議に向けて、話し合いを行った。 ○2 月 28 日じりつ部会企画でサービス調整会議を実施。 テーマ：地域移行のためにそれぞれができることは ・アンケート結果報告 （相談支援専門員が関わった地域移行・グループホームからの地域移行） ・グループワーク（実際の 7 事例を通して、アイデア出し） 相談支援専門員・グループホームサビ管から“グループホームから地域移行の可能性がありそうな”事例の提供をしてもらい、地域移行のためのアイデア出しを行った。
成果	○相談支援専門員およびグループホームのサービス管理責任者に向けてアンケートを行った結果、「手立てがあれば地域移行ができる」（手立て＝住まい探し、金銭・家計、家族・支援者の反対・本人の意思等、同じ支援の目的を共有）ということが分かった。 ○グループホームから地域に移行するための意識化や資源の活用方法について様々な視点からの考えを共有することができた。
課題 次年度への方向性	○アンケート結果およびサービス調整会議において出されたアイデアをもとに、グループホームからの地域移行に向けた具体的な方策を考える
その他	

令和6年度 じりつ専門部会（にも包括ワーキング） 報告書

部会メンバー （○副部会長）	そうゆう相談センター（○勝部・森谷）、出雲保健所（矢野・土井） ふあっと（○渡部）、事務局 福祉推進課（山本）
テーマ（ねらい）	○認知症の有無に関わらず精神疾患がある高齢者の退院支援における現状と課題を明らかにする（ケアマネジャー、高齢者施設等へのアンケート調査） ○利用者が求める住まいと居住支援について検討する
活 動 状 況	○第1回 WG（5月8日） ・R5年度に検討した出雲圏域における地域課題と必要な取組からR6年度重点的に取り組みたい課題を検討 ○第2回 WG（6月3日） ・年間事業計画の検討、次年度への展望について検討 ○第3回 WG（7月12日） ・ケアマネジャーへのアンケート調査について （保健所がH27年度に実施したアンケートを元に案を考える） ○第4回 WG（8月26日） ・高齢者の退院支援にむけた現状と課題、必要な支援等について ・医療機関の対応状況や、アンケート調査項目について医療機関相談員からの聞き取り ○第5回 WG（9月13日） ・高齢者の退院支援にむけた現状と課題、必要な支援等について ・ケアマネ・高齢者施設での対応状況や、アンケート調査項目についてあんしん支援センターからの聞き取り ○第6回 WG（11月1日） ・アンケート調査（施設・居宅介護支援事業所）の素案について検討 ○第7回 WG（11月6日） ・アンケート調査（居宅介護支援事業所）の素案について検討 ○アンケート調査（施設・居宅介護支援事業所）を実施（2月） ○第8回 WG（3月6日） ・アンケート調査結果について ・次年度に向けてまとめ

	○部会合同会議（6月20日、9月13日、11月6日、1月20日） ・各WGの年間事業計画、進捗状況の報告 ・サービス調整会議企画、GHからの地域移行について検討 ○サービス調整会議（2月28日）GHからの地域移行について ・「地域移行のためにそれぞれができることは」 ・グループワーク、事例を通してアイデアを出し共有する
成 果	○現場からの聞き取りによりアンケート項目を作成、実施。結果から高齢者の退院支援にむけた現状と課題、必要な支援等について整理し、今後の取り組みについて検討できた。
課題 次年度への方向性	○アンケート結果から高齢者や長期入院者の退院支援を具体的に組み組んでいく。 ○WGで地域移行が進まない方の事例検討を多職種多機関で行う。その後、チームで関わる仕組み作りを考える。
その他	

令和6年度 こども専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：岡本（さざなみ学園） 副部会長：田中（プレーゲ） メンバー：勝部（さざなみ学園）、福田由（プレーゲ） 矢田（ハートピア出雲スマイル）、岡（つくつく）、夕永（CS いずも） 事務局：三沢（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	重症心身障がい児や医ケア児、外国籍児、行動障がい児などよりきめ細やかな支援が必要な児の児童発達支援や放課後等デイサービス、短期入所等の受入れ促進に向けて、実態把握として障がい児サービス提供事業所をはじめ、課題に関連した関係機関等が抱えている現状や課題を知る。
活動状況	■部会開催 11回 〔4/22、5/22、6/19、7/12、9/18、10/30、11/20、11/25、12/18、1/22、2/21〕 ①放課後等デイサービス事業所 ワールドカフェ 7/2(火)10:00～12:00 参加：13事業所 サービスが必要な児童に必要なタイミングでつながらず待機している現状を受け、参加者全員が自由に発言し意見交換を行った。また事業所間の相互理解を深めた。 ②児童発達支援 座談会 8/21(水)15:30～17:00 参加：3事業所（後に1事業所聞き取り） 児童発達支援の待機者が多い現状から、事業所の現状と今後の課題を話し合った。 ③サービス調整会議 こども専門部会企画 11/27(水)13:30～15:00 参加：44名 『子どもから大人のサービスへのつながりのために工夫できること・仕組みづくり』相談支援専門員・児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者に参加してもらい、ケースを紹介しイメージを持ってグループワークを行い、それぞれの立場から話し合った。 ④出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児の生活支援検討会（出雲保健所主催） 12/3(火)14:00～16:00 部会長・事務局 参加 支援の現状と課題・今後の取り組み方針など知る機会となった。 ⑤子ども政策課との情報共有 1/15(水)9:30～12:00 児童クラブ担当者を交えて、要支援児童の児童クラブの受入れや運営の状況、放課後等デイサービスの現状について情報共有した。また、幼児発達支援担当者を交え、発達支援が必要な児の現状・課題、児童発達支援の現状について意見交換を行った。

成 果	①について 地域で障がい児を支えていくための支援ニーズがますます複雑化・高度化している中で、児童通所サービス事業所の抱えている課題も同様に複雑になっている現状を確認した。同業同士が集うことで具体的なアイデアやそれぞれの悩みを共有し相互理解を深めた形となった。 ②について 各事業所の体制や待機の状況について意見交換を行い、発達支援の必要な児童に適切なタイミングでつながりにくくなっている現状や課題を確認した。また、同業同士の相互理解の機会となり意義のある会となった。 ③について それぞれの立場から「児童期にできるといいこと」「大人になってからの困り感や課題」を話し合い、それを踏まえて「児童期から大人につながるための工夫や仕組み」について幅広く意見を聞くことができた。個々がもつケースに対して、医療とつながるタイミング等具体的な支援を考えることができた。 ④について 医療的ケア児の在宅療養の状況や、学校・保育園の受入れ、看護師の人材確保・継続雇用の仕組み等、出雲圏域の現状を知り、意見を聞くことができた。 ⑤について 【児童クラブ】加配補助額の上限を超える要支援児童数への対応や人手不足の現状、今後の事業動向等を聞くことができた。また、放課後等デイサービスとの併用利用のしにくさ等の課題を共有する機会となった。 【幼児発達支援】発達に個人差が出てくる年中で発達クリニックにつながるケースが比較的多い現状や、園内支援の積上げの難しさ、児童発達支援へのつながりにくさ、ひいては児童を担当する相談支援専門員の減少等、多くの課題を共有することができた。また、在籍園・巡回相談担当者・相談支援専門員等関係機関がより一層連携していくことの重要性を考える機会となった。
課題 次年度への方向性	○短期入所事業所との意見交換 現状や課題をうかがい理解を深め、今後の受入れに向けて方策を模索する。 ○相談支援専門員との意見交換 障がい児通所サービスや、その他利用可能な福祉サービスにつないだ取組や課題について情報共有を行う。 ○地域で支えるためのニーズ把握 障がい児サービス提供事業所が抱える課題について継続的に情報を把握していく。
その他	

令和6年度

そうだん専門部会 報告書

部会メンバー	ハートピア出雲：布野寛明（部会長）、景山一優 ふあっと：足立須和子（副部会長）、渡部和子 事務局（福祉推進課）：山本課長補佐、高山課長補佐、青木係長
テーマ（ねらい）	本市の相談支援体制や活動内容の検証・評価を行う。 令和7年度の基幹相談支援センター設置に向け、必要な機能の検討を行う。併せて、今後の相談支援体制について協議会に提言する。
活動状況	5月＜第1回専門部会＞ ・3年間の部会の活動計画を検討・作成 5月＜第2回専門部会＞ ・相談支援の役割と機能の整理 6月＜市町村と基幹相談支援センター、主任相談支援専門員等の連絡会義への参加＞ 6月＜第3回専門部会＞ ・7月のサービス調整会議の企画 7月＜研修会、意見交換＞ ・サービス調整会議にて、基幹相談支援センターに関する研修を実施し、必要な機能について意見を聞く 8月＜第4回専門部会＞ ・7月サービス調整会議の振り返り ・相談支援の役割と機能の整理 ・相談支援事業所アンケートの協議 9月＜相談支援事業所アンケートの実施＞ 10月＜第5回専門部会＞ ・相談支援事業所アンケートの結果の考察 ・相談支援の役割と機能の整理 11月＜第6回専門部会＞ ・基幹相談相談支援センターの機能について確認 ・委託相談支援事業所アンケートの協議 12月＜委託相談事業所アンケートの実施＞ 12月＜第7回専門部会＞ ・委託相談事業所アンケートの結果の考察 1月＜第8回専門部会＞ ・相談支援体制についての協議
成果	●基幹相談支援センターに関する研修会について 研修会を通して基幹相談支援センターの機能についての理解を深め、研修会に参加した相談支援専門員より基幹相談支援センターに求める機能の意見を聞くことができた。

	●相談支援専門員アンケートについて 市内の相談支援事業所の体制や一般相談の対応状況をアンケートによって把握することができ、今後の相談支援体制を考える参考データをまとめることができた。
課題 次年度への方向性	●基幹相談支援センターの設置について 基幹相談支援センターの体制整備を行い、機能する基幹相談支援センターを目指していく。 相談支援体制を見直し、出雲らしい相談支援体制の構築に繋げる。
その他	

令和6年度 就労支援ネットワーク会議 報告書

メ ン バ ー	リーダー：青木（あそび） 副リーダー：安田（リーフ） 書記：二岡（虹の工房まるべりー） 古角（やまびこ園） メンバー：佐藤（あそび） 柳楽（ワークセンターフロンティア） 柳楽（ぽんぽん船） 小豆澤（豆の樹） 山根（ハローワーク出雲） 福田（リーフ） 平木（出雲養護学校） 萬代（ハートピア出雲） 鍵山（こころの医療センター） 竹縄（デイケアピノキオ） 藤井（出雲保健所） 佐藤（アトリエール） 原（島根県東部高等技術校） 細木（しまね東部若者サポートステーション） 森山（島根県中小企業家同友会／Office Sou） 吉川（スタンドUP） 佐藤（飾彩房） 原田（太陽の里） 福岡（太陽の里） 藤江（ミライカ） 永田（エルパティオ三葉園） 長岡（エルパティオ三葉園） 森山（出雲村田製作所） 事務局：原田（福祉推進課） 高木（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 2. 企業とのつながり作り 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 5. 「就労選択支援」の出雲での運用のあり方について検討する
活 動 状 況	◆ネットワーク会議の開催 年6回 4/23、6/19、8/27、10/7、12/11、2/4 ◆事例検討 ネットワーク会議時に実施 ◆合同ジョブガイダンス 〈job ガイダンス 2024〉 10月25日（金）13：30～16：00 出雲科学館多目的室1～3 21名参加 +同伴者9名 内容：講義①「働くための心構え～履歴書・面接・ビジネスマナー」 講義②「企業が求める人物像」、合同模擬面接 ◆いずもの福祉事業所見学会 障がい者雇用に関心のある企業の方を対象とした福祉事業所見学会 9月27日（金） 市内10福祉事業所の見学会 21事業所 36名参加 意見交換会 11事業所 14名参加 ◆福祉から一般就労へステップアップ意見交換会 福祉就労事業所等のスタッフを対象に、一般就労支援のノウハウを情報提供 11月29日（金） 13：30～15：30 出雲科学館多目的室 15事業所 20名参加 事例紹介、就労移行支援体制加算・障がい者雇用制度の紹介、グループワーク

	◆はたらく仲間のコーヒータ임 一般就労で働く障がい者の気軽な集い 「ふじひろ珈琲」にて 毎月第3金曜日 18:00～19:00 ◆#ツリーカフェ 障がい者雇用をめぐる情報交換の場 「スターバックスコーヒーゆめタウン出雲店」にて 偶数月第2木曜 18:00～20:00頃
成 果	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 定期的にネットワーク会議を開催し、事業の企画・実施に共に取り組んだ。一般就労を目指す当事者のための学習機会として合同ジョブガイダンスを開催。動画教材「自分にあった働き方について考える」を活用した就職活動支援講座、実際の企業の採用担当者による模擬面接、ハローワーク担当者による「企業が求める人物像」講義を実施した。 2. 企業とのつながり作り 新たな試みとして「いずもの福祉事業所見学会」を実施した。企業の採用担当者に福祉事業所の利用者が実際に働く現場を見てもらい、就労の可能性について理解を深めてもらうこと、あわせて業務連携の可能性を考えてもらうことを目的に企画。市内の福祉事業所10か所から3事業所を選んで見学してもらう形をとり、企業側のニーズに合わせて多くの事業所を知ってもらうことができた。また、見学後の意見交換会では企業・福祉双方の参加者が感想や質問など自由に話し合い、相互理解を深めることができた。 障がい者雇用をめぐる気軽な情報交換の場として「#ツリーカフェ」を継続的に開催している。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 就労系福祉事業所スタッフ、精神科デイケアスタッフを対象とした意見交換会を開催。福祉から一般就労へステップアップされた事例を取り上げ、事業所内で支援するスタッフの取り組みや相談支援専門員・各関係機関との連携について意見交換を行った。また障がい者雇用支援制度の活用方法や就労移行支援体制加算について具体的な金額を示しながら情報共有を行った。具体的な取り組みの進め方や、事業所として一般就労支援に取り組むメリットがよく理解できたと好評であった。 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 一般就労している当事者への就労定着支援として「はたらく仲間のコーヒータ임」を開催している。仲間のつながりの中で近況や悩みごとなどを話せるリフレッシュの場となっている。

課題 次年度への方向性	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 就労支援をめぐる連携協働のネットワークの重要性は変わらない。福祉に限らず幅広い関係者が集い、共に考え、共に活動する協働のプラットフォームとして継続していく。 合同ジョブガイダンスについては参加者数が減少傾向であるため、プログラム内容や周知方法の検討を行いたい。 2. 企業とのつながり作り 障がい者雇用率の段階的な引き上げ等により、障がい者雇用は推進拡大の途上にある。関心やニーズが増大する一方で、依然として躊躇している企業、不安を抱いている企業は多く、任せる業務内容の創出をどうしたらいいのか、職場内での理解促進に苦慮するといった悩みが寄せられる。また、支援制度や支援機関について情報が十分に届いていない状況も伺える。福祉事業所見学会や#ツリーカフェの取り組みを継続し、企業とのつながりや相互理解をさらに広げ、深めていけるよう模索したい。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 市内には多数の就労系福祉事業所があるが、そのほとんどが就労継続支援事業所である。一般就労へ向けた支援の経験が乏しい事業所も多く、利用者から就職の希望を言われたときに何から始めたらいいか分からないという声がある。また、就労準備性に関する認識や評価は事業所やスタッフにより様々であり、就職への足かせになりかねない懸念もある。事業所スタッフが一定の知識を持ち合わせておくことでスムーズな一般就労への移行が実現可能となる。就職を希望する当事者に広くチャレンジの機会を保証できるよう、情報交換会を継続して実施していく。次年度に向けては、より参加してもらいやすいよう開催時期や周知方法を検討するとともに、参加呼びかけの対象を拡大したい。 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 一般で働く障がい当事者のためのゆるやかな集いの場として「はたらく仲間のコーヒータ임」を月1回のペースで息長く継続していく。幅広く活用してもらえるよう対象者に声かけをしていきたい。 5. 「就労選択支援」の出雲での運用のあり方について検討する R7年秋より「就労選択支援」の導入が予定されている。新制度について関係者間で情報共有を図るとともに、出雲地域の実情に沿った運用のあり方について話し合いを行っていく。
その他	

令和6年度 サビ管・児発管等ネットワーク会議 報告書

メンバー	会長：池田（ぽこぽこ） 副会長：長澤（美野園） 書記：金友（WANAJAPAN） ＜メンバー＞ 居住系 WG：松尾（光風園）、矢野（わかば） GH系 WG：富岡（ふあっと）、石富（かんど） 日中活動系 WG：金友（WANAJAPAN）、福島（麦の家） 就労支援 WG：武田（ミライカ）、永田（エルパティオ） 居宅介護 WG：松井（さくら） 児童通所 WG：寄貞（すだちクラブ） 加本（いろどり） 丸亀（スタンドバイ YOU） 事務局：大島、山本（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	（１） サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等が、情報交換やサービスの質の向上に繋がる取組を行いながら、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。 （２） 事業種を超えて共通のテーマで意見交換（ビヨンドプロジェクト等）を行い、縦の繋がりを深める事で障がいのある方を切れ目なく支援する。
活動状況	（１） サビ・児発管のサービスの質の向上を目指す ①会の開催 年４回（４／２４、７／３、１１／２６、２／１９） ・各WGの活動報告 ・虐待防止・権利擁護研修等の企画、準備 ※実施形態はWG単位。各WGにあった研修とする。 ・ビヨンドプロジェクト等の企画、準備 ②WGの開催（各WG活動報告 参照） （２） 事業種を越えて意見交換、勉強会 ①ビヨンドプロジェクト（１１／２０、１／３１） ・生活介護、就労B型事業所の事業所説明会。 ・児発・放デイの事業所説明、支援について情報交換と勉強会。
成果	（１） サビ・児発管のサービスの質の向上を目指す ・各WGからの活動報告により、事業所での困り感や取り組みなど事業種を越えて学ぶ事ができた。 （２） 事業種を越えて意見交換、勉強会 ・生活介護、就労B型事業所の説明会では、今回より相談員へも参加を促し多数の方の参加に繋がった。また、事業所の特色を知って頂く良い機会となった。 ・児童の事業所説明と勉強会では、今回が初めての取り組みであつ

	たが児童の事業所を知ってもらい支援についても知ってもらう良い機会となった。保護者や本人の参加ができればとの意見もあった。 ・ビヨンドプロジェクトで事業所説明会を行う事の意義や毎回同じ事業所の参加で事業所説明会をする必要性を疑問に感じる意見もある。今後、ビヨンドプロジェクトの方向性を再度検討していく必要がある。
課題 次年度への方向性	○サビ・児発管のサービスの質の向上を目指す ・参加されていない事業所の参加を促しサービスの質の向上とサビ・児発管の関係構築を目指す。 ○ビヨンドプロジェクトの意義や役割などを検討する。
その他	

【居住系ワーキング】

メンバー	・代表：矢野信子（わかば）、松尾卓哉（光風園） 長澤紀彰（美野園）、浅津真弓（サンホーム）、三島有香（太陽の里） 松村由美子（ふたば）
テーマ（ねらい）	（１）各施設情報交換を行いサービスの質の向上に繋がる取り組みを行いながら孤立しない顔の見えるネットワーク構築を目指す。 （２）情報交換を主として、サビ管が抱える課題について話し合う。
活動状況	下記年間実績のとおり
成果	（１）虐待防止・権利擁護研修の実施 （２）毎回情報交換を行うことで、課題解決へ進む事ができた。
課題 次年度への方向性	法定研修の進め方や各会議の開催方法等について、情報交換を主とした取り組みを次年度も引き続き取り組んで行きたい。
その他	次年度は虐待防止研修へ各施設の支援員も参加できるよう働きかけていく。

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R6.6.7（金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の報告 ・今年度の計画確認 ・情報交換	4 名
2 回 目	R6.7.3（金） 15：30～17：00	・虐待防止・権利擁護研修の準備について ・情報交換	4 名
3 回 目	R6.11.8（火） 15：30～17：00	・虐待防止・権利擁護研修について各施設で実施した研修についての情報共有。 ・情報交換	3 名
4 回 目	R7.2.7（金） 15：30～17：00	・今年度のまとめ ・次年度について ・情報交換	4 名

【グループホームワーキング】

メンバー	・グループホーム：17 事業所 ・代表：石富氏（ハートフルホームかんど）、富岡（ふあっとほおむ）長澤氏（はまなす）、井田氏（ふたばホーム）、ぽてとほうす、竹内氏（彩華荘）、グループホーム光風園、つばめ、福田氏（太陽の里）、金友氏（WANAJAPAN）、古澤氏（桑友グループホーム）、伊藤氏（わんぱくハウス）、犬山氏（ウェルガーデンたんぽぽ）、佐々木氏（さくらトパーズ）、村松氏（こといろ）、矢田氏（ビータベース）、布野氏（ユナイト）
テーマ（ねらい）	グループホームに関する情報交換や質の向上に繋がる取り組みを行いながら、孤立しないネットワークの構築を目指す。
活動状況	グループホームの見学、情報交換、虐待防止研修など実施
成果	参加メンバー同士で情報共有でき、他事業所での取組を参考にする機会となった。
課題 次年度への方向性	参加メンバーが限られている。より多くの情報交換が出来るように次年度から欠席者からも議題に関する意見や要望などをアンケート形式で提出してもらうよう働きかけていく。
その他	

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R6. 5.17（金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の位置付けについて（確認） ・今年度のワーキング活動計画 ・情報交換	4 名
2 回 目	R6. 7.9（火） 15：30～17：00	・グループホームこといろ、こはれの見学 ・情報交換	6 名
3 回 目	R6. 11.22（金） 15：30～17：00	・障がい者虐待防止、権利擁護研修会 ・じりつ部会からの依頼について ・情報交換	4 名
4 回 目	R6. 2.17（月） 15：30～17：00	・今年度振り返り ・来年度の活動について ・情報交換	4 名

【日中活動系ワーキング】

メンバー	・日中活動系事業所： 事業所 ・代表：麦の家（福島）、WANA JAPAN（金友）
テーマ（ねらい）	（１）サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等が、情報交換やサービスの質の向上に繋がる取り組みを行いながら、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。 （２）事業種を超えて共通のテーマで意見交換（ビヨンドプロジェクト等）を行い、縦の繋がりを深める事で障がいのある方を切れ目なく支援する。
活動状況	（１） 会の開催 年３回（６月・１０月・２月） ・情報交換 ・障がい者虐待防止・権利擁護研修 （２） ビヨンドプロジェクトの実施
成果	（１）参加者は少人数であるものの、情報交換や虐待防止に関する意見（取り組みや課題点）が活発に出てきたことはよかったです。 （２）今回は障がい者・児童それぞれがビヨンドプロジェクトの企画を実施。相談支援事業所への呼びかけもあり、昨年度以上に関係機関との交流もできたのではないかと思います。
課題 次年度への方向性	・参加者が少ないため、もっと多くの方に参加してもらえよう、事業所見学などを取り入れていく。
その他	

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R6.6.13（金） 13：30～14：30	・今年度の活動報告について ・情報交換	3名
2 回 目	R6.10.11（金） 13：30～14：30	・障がい者虐待防止・権利擁護研修	3名
3 回 目	R7.2.14（金） 13：30～14：30	・来年度の活動計画 ・情報交換	2名

【就労支援ワーキング】

メンバー	・就労支援系事業所： A型5事業所、B型33事業所 ・代表：武田香織（ミライカ） 永田健二（エルパティオ三葉園）
テーマ（ねらい）	（1） 新規の事業者が増えてきていることもあり、横のつながりをもつ機会が増えることよい。 （2） それぞれが悩みを抱えながら業務を行っている中で、情報交換、共有をおこなうことで解決のヒント、心のよりどころとなる場となればよい。
活動状況	（1） 会の開催 年5回（5月、7月、9月、11月、2月） （2） イベント ★9月14日（土）10：00～16：00 福祉事業所商品販売・展示会 ※イオンモール出雲1F 13事業所参加 ★10月23日（水）14：00～ ワールドカフェ ※出雲科学館 15事業所19名参加 ★11月13日（水） 交換留学会 ※それぞれの事業所にて 受入れ施設13事業所 体験者14名 イベント開催に向け各班で打合せ、反省会の開催 （3） ビヨンドプロジェクト 11月20日（水） ※出雲弥生の博物館 16事業所20名参加
成果	（1） 定期的な会の開催、イベントの開催をおこなうことができた。 （2） 新規事業もおこない、他の事業所と交流をする機会をもつことできた。 （3） 相談支援専門員へ事業所紹介ができ、その後見学に繋がるケースもあった。
課題 次年度への方向性	参加メンバーが固定されてきている。就労支援ワーキングに参加してよかったと思える魅力のある会にできるとよい。 事業が秋に集中しないよう活動の調整をおこなえるとよい。 現在の活動内容を継続できるとよい。各事業所からの参加メンバーも変わることで交流が深まるとよい。
その他	

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R6.5.14 (火) 15:30～17:00	自己紹介 第1回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 今年度の活動計画について 情報交換	23 名
2 回 目	R6.7.16 (火) 15:30～17:00	各事業所より近況報告、悩み事について 第2回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 各イベント班からの進捗報告 情報交換	13 名
3 回 目	R6.9.19 (木) 15:30～17:00	各イベント班からの進捗報告 ビヨンドプロジェクトについて 情報交換（グループワーク） ※事前にアンケートをおこなった内容にて	18 名
4 回 目	R6.11.6 (水) 15:30～17:00	各イベント班からの進捗報告 ビヨンドプロジェクトについて 虐待防止・権利擁護研修 各事業所より近況報告	17 名
5 回 目	R7.2.12 (水) 15:30～17:00	交換留学会について（報告） ビヨンドプロジェクトについて（報告） 今年度の振り返り、次年度に向けて 就労選択支援について	13 名

【児童通所系ワーキング】

メンバー	・代表：スタンドバイ YOU(丸亀)、いろどり(加本)、すだちクラブ(寄貞)
テーマ(ねらい)	(1) 出雲市にこんな取り組みをしてほしい等、WGで話し合った内容を協議会で検討できるといいな (2) 本音で話せるつながりができるといいな
活動状況	(1) 下記、年間実績 (2) 第1回ビヨンドプロジェクト (3) こども専門部会、ワールドカフェ (4) サービス調整会議、事例検討
成果	(1) 報酬改定に伴い、義務化されたマニュアルや支援内容、課題等、他事業所の取り組み等共有することができた (2) 今回のビヨンドプロジェクトは、たくさんの就労、相談員の方に参加いただいた。切れ目ない支援とは、支援者一人ひとりが専門性を高め、乳幼児期から丁寧に支援を行うことで障がいのある方の社会参加につながっていくと改めて実感できた
課題 次年度への方向性	○みんなが意見を自由に話せる場になるよう工夫が必要 ○ビヨンドプロジェクト一本化(案)
その他	

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R6.5.22(水) 10:30~12:00	○出雲市山本氏よりネットワーク会議の位置づけの説明 ○つくつく岡氏よりこども部会の報告 ○代表よりWG年間計画確認、今後の流れや方向性を確認 ○報酬改定後の事業所の取り組みについて情報交換	16名
2 回 目	R6.6.26(水) 10:30~12:00	○出雲市山本氏より、感染症対策研修 ○BCP、安全計画等を持ち寄り、情報共有	12名
3 回 目	R6.10.9(水) 10:30~12:00	○9月開所、児童発達支援事業所の紹介 ○こども部会より、意見交換会の報告 ○虐待防止研修	21名
4 回 目	R6.2.5(水) 10:30~12:00	○支援についての疑問等、意見交換 ○知能検査(WISC)について ○来年度の活動予定	9名